3 準動詞と動詞

準動詞の特徴を動詞と比べてみよう。

1 動詞と異なる特徴

● **述語動詞にならない**

「生徒たちが(今)プールで泳いでいる」という英文を書いてみよう。

○ Students **are swimming** in the pool.

× Students *swimming* in the pool.

現在分詞 swimming だけでは動詞になれない。

● **名詞・形容詞・副詞として働く**

一方,「プールで泳いでいる生徒たち」を表すには，上の swimming を使うとよい。

students **swimming** in the pool

名詞 ↑ 形容詞の働き

現在分詞の swimming は名詞を修飾する(＝形容詞の働きをする)。

● **それ自体は時制を表さない**

動詞は現在形・過去形など形の変化で時制を表すが，準動詞はそうではない。

I want **to dance**. (私は踊りたい)

I wanted **to dance**. (私は踊りたかった)

過去形 → 過去の文でも形は同じ

● **主語の人称・数によって形が変わらない**

動詞は主語が 3 人称単数で現在のとき形が変わるが，準動詞は変わらない。

He wants **to dance**. (彼は踊りたがっている)

3 単現の s → 3 単現でも形は同じ

2 動詞に似た特徴

● **目的語・補語・修飾語を伴うことができる**

I enjoy **playing** soccer.

動名詞＋目的語

(私はサッカーをして楽しむ)

基本的な準動詞の特徴を見てきたが，準動詞にはこれ以外にも様々な機能がある。くわしい内容については，第 7 章 不定詞，第 8 章 動名詞，第 9 章 分詞を参照してください。

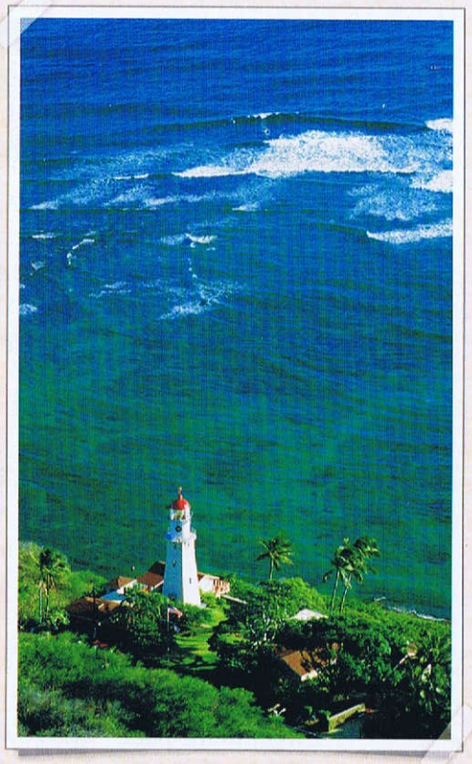
第7章 不定詞

イメージをつかもう

私は灯台になりたい

I'd like **to be** a lighthouse
All scrubbed and painted white
I'd like **to be** a lighthouse
And stay awake all night
To keep my eye on everything
That sails my patch of sea;
I'd like to be a lighthouse
With the ships all watching me.

私は灯台になりたい
雨風に洗われ，白く塗られた灯台に
私は灯台になって
一晩中目を覚ましていたい
私の光が届く海を航海する
すべてのものを見守れるように
私は灯台になって
すべての船に見つめられていたい



これはアメリカの女性詩人 Rachel Field(1894-1942)による，I'd Like to Be a Lighthouse という詩です。今では GPS などの機器の発達によって，その重要性は以前ほどではありませんが，灯台を見る人の心には様々な想いが浮かぶことでしょう。

ところで，この詩には，不定詞がいくつか出てきます。**to be** ～と **to keep** ～です。前者は「～すること」，後者は「～するために」と目的を表しています。

不定詞の意味はいろいろ

しかし，不定詞はこれ以外にもいくつかの意味を表します。次の例を見てみましょう。

上は生活改善に関するネット上の広告です。50 WAYS TO IMPROVE YOUR LIFE とあります。これはどういうことでしょうか。「生活を改善するために(?)50の方法」では意味がよくわかりません。この場合 to improve は前の ways を修飾して，

50 ways **to improve** your life

「生活を改善する50の方法」となります。このように，不定詞は目的を表すばかりではなく，前の名詞を修飾することもあります。

不定詞の to とは？

形は同じなのに，表す意味はいろいろ。不定詞はなんだか難しそうだと思っている人も多いかもしれません。

でも，一見別々の用法に見えても，共通する性質があるのです。例えば，不定詞の to。これはもともと前置詞の to と同じく，**方向や目標**を表すものです。

I went **to** the pool.　（私はプールへ行った）
私は行った　プールへ向かって

上の文の to は前置詞で，「～へ向かって」という意味です。〈to ＋動詞の原形〉の to も同じように考えてみることができます。

I went **to** the pool **to** swim.　（私は泳ぐためにプールへ行った）
私は行った　プールへ向かって　泳ぐへ向かって
気持ちが泳ぐ方向へ向かっている＝泳ぐために

「泳ぐへ向かう」は日本語として変ですが，この場合，実際にある場所へ向かうというより，気持ちがそういう方向へ向いている，と考えれば「泳ぐという目標に向かって」つまり「泳ぐために」となります。

to の「方向・目標を表す」性質は，副詞的用法(～するために)だけでなく，形容詞的用法・名詞的用法でも同様に見られます。

to の意味合いは同じ

I have no water **to drink**.　（私は飲み水を持っていない）
水　飲むのに向く
飲むのに向いている水＝飲み水

この不定詞は前の名詞 water を修飾しているので，形容詞的用法と呼ばれます。この場合も，方向性や用途を表す，to の意味が残っています。

また，次のように文中で名詞の働きをして「～すること」の意味になることもあります。

I want **to dance**.　（私は踊りたい）
私はしたい　したい(という気持ち)の向かう方向は→踊る
＝踊ることを

「方向・目標を表す」性質は同時に「これからすること・未来を表す」傾向にもつながります。

I wish **to travel abroad**.　（外国旅行がしたいな）
He began **to sing**.　（彼はうたい始めた）

いずれも，これからしようとしていることや，まだ実現していないことを表しています。

さらに to には「**到達点を示す**」性質があるので，ここから不定詞には「結果」(…して〔その結果〕～する)を表す用法があることも理解できます。

I woke up one morning **to find** myself famous.
目が覚めた　自分が有名になっていることがわかる結果となる
（ある朝目が覚めたら私は有名になっていた）

不定詞を考える上で，このような性質があることをちょっと頭に入れておくと，様々な用法がわかりやすくなります。

なぜ「不定詞」と呼ぶの？

〈to ＋動詞の原形〉はなぜ「**不定詞(＝定められない言葉)**」と言うのでしょうか。それにはまず，不定詞と動詞とは使い方がどう違うかを見てみましょう。

I **want** to be a journalist.　（私は報道記者になりたい）
He **wants** to be a journalist.　（彼は報道記者になりたがっている）
→ 主語が３人称単数で現在のときは s がつく

動詞は，主語の人称や数によって形が変わります(形を定められます)。しかし，不定詞は主語が何であっても常に同じ形です。不定詞という名は，この「**主語によって形を定められることがない**(＝不定である)」ことからつきました。

この章では，そんな不定詞の使い方をマスターしましょう。

§66 必修 名詞的用法

143 **To watch** wild birds is interesting. 野鳥を観察するのはおもしろい。
144 Her dream is **to be** a singer. 彼女の夢は歌手になることだ。
145 I want **to study** ecology. 私は生態学を学びたい。

Point 1 不定詞は〈to ＋動詞の原形〉

〈**to ＋動詞の原形**〉の形を**不定詞**(**to 不定詞**)と言う。名詞的用法の不定詞は名詞と同じように，「～する[である]こと」の意味を表し，文の**主語・補語・目的語**になる。

Point 2 不定詞が文の主語になる

143 では To watch wild birds が文の主語になっている。ただし，不定詞が主語として用いられる場合，**形式主語の It** を文頭に置き，不定詞を後にまわすことが多い。

143→ **It** is interesting *to watch wild birds*. ➡p.170 参照

/注意 主語になるすべての不定詞が形式主語の It に置きかえられるわけではないが，次のように主語にある程度の長さがあれば，形式主語を用いるのが自然である。

To fly in the air like a bird was man's long-cherished dream.
主語
(鳥のように空を飛ぶことは，人類が長い間抱いていた夢であった)
→ **It was** man's long-cherished dream **to fly** in the air like a bird.

cherish は「心に持ち続ける」の意味。long-(長い間)+ cherished(心に抱いていた)

しかし，To see is to believe.(百聞は一見にしかず)のように，主語が〈to+ 動詞の原形〉の2 語だけの場合，形式主語の It に置きかえることは不自然である。
× *It is to believe to see.*

Point 3 不定詞が文の補語になる

144 の to be ～は主格補語で，Her dream の内容を示す。文型は〈S + V + C(= 不定詞)〉である。 ➡p.54 参照

The best way is **to take** the bus, but you can take a taxi.
(最もよい方法はバスを利用することだが，タクシーを使ってもよい)
Her job was **to prepare** meals.
(彼女の仕事は食事をつくることだった)

Point 4 不定詞が文の目的語になる

145 で to study ～は want の目的語になっている。文型は〈S + V + O (= 不定詞)〉。

I don't like **to work** at night.
(私は夜働きたくない)

/注意 **want to ～**や **wish to ～**(～したい)のように，目的語になる不定詞は前の動詞と結びつけて覚えておくと便利である。

> **try to ～**(～しようとする)，**begin to ～**(～し始める)，**wish to ～**(～したい)，**start to ～**(～し始める)，**need to ～**(～する必要がある)，**manage to ～**(どうにか～する)，**promise to ～**(～すると約束する)など

She came out on stage and **began to sing**.
(彼女は舞台に出てうたい始めた)
We **managed to get** to the airport in time.
(私たちはどうにか遅れずに空港に着いた)

参考 〈S + V + O + C〉の文で O が to 不定詞の場合は，**形式目的語の it** を用いて，真の目的語である to 不定詞は後へまわす。 ➡p.171 参照

The young man thought **it** impossible **to find** a new job.
S V O C 真の目的語
形式目的語
(若者は新しい仕事を見つけることは不可能だと思った)

im- は「不」など打ち消しの意味を表す。possible(可能な) → impossible(不可能な)，perfect(完全な) → imperfect(不完全な)

参考 不定詞を文の主語にする場合，必ずしも形式主語の It を用いなくてもよいが，不定詞を〈**S + V + O + C**〉の文の目的語にする場合には，**形式目的語の it** を用いる必要がある。

①不定詞が主語の場合
○ **To find** a new job was impossible.
(新しい仕事を見つけるのは不可能だった)
○ **It** was impossible **to find** a new job.

②不定詞が目的語の場合
○ I found **it** difficult **to get** a ticket.
(切符を手に入れるのは難しいとわかった)
× I found *to get a ticket* difficult.

CHECK AND EXPRESS 66

下線部が( )内の日本語の意味を表すように，空所をうめなさい。

1. What was his dream? —— It was _____. (アメリカで働く)
2. What did you try to do? —— I tried _____. (その山に登る)
3. What do you want to do? —— I want _____. (彼女の絵を見る)

§67 必修 形容詞的用法

146 Nancy was the only *girl* **to know** the truth.
ナンシーは真実を知るただ1人の女の子だった。

147 John has a lot of *work* **to do** today. ジョンは今日する仕事がたくさんある。

148 The baby found a *toy* **to play** *with*. 赤ん坊は遊ぶおもちゃを見つけた。

149 He forgot his *promise* **to call** me. 彼は私に電話するという約束を忘れた。

Point 1 不定詞が前の(代)名詞を修飾する

前の(代)名詞を修飾する不定詞を，形容詞的用法の不定詞と言う。146 のように，「真実を知る→ただ1人の女の子」と言うとき，不定詞を用いて，the only *girl* **to know** the truth とする。

形容詞 true(本当の)の名詞形が truth。同様に，warm(暖かい)→ warmth(暖かさ)，long(長い)→ length(長さ)。

Point 2 不定詞と修飾される(代)名詞の関係

不定詞と修飾される(代)名詞との間には，次のような関係がある。

a. S と V の関係

146 では to know the truth という動作をしたのが girl だから，girl と to know the truth は意味的には S と V の関係にある。

146→ The only girl knew the truth. It was Nancy.
S V

b. V と O の関係

147 では work は to do の目的語だから，意味的には to do と work は V と O の関係。

147→ John does a lot of work today.
V O

! 注意 S-V か V-O か

次の 1)，2)のような例では，S と V の関係なのか，V と O の関係なのかを注意して判断すること。

1) I have no one **to support** me.
(私を支援してくれる人がいない)
= I have no one who supports me. 〔S と V の関係〕

2) I have no one **to support**.
(私は支援する相手がいない)
= I have no one who(m) I support. 〔V と O の関係〕

c. 前置詞の目的語

(代)名詞が不定詞の後の前置詞の目的語になることがある。148 の with の目的語は a toy である。次のような例で考えてみよう。

They have no *house* ***to live in***. (彼らには住む家がない)

前置詞の目的語とは，前置詞の後に来る語句のこと。ふつう(代)名詞・動名詞などが前置詞の目的語になる。

これは，live *in a house* の house が不定詞によって修飾されると考えると理解しやすい。元の句にあった前置詞は〈(代)名詞＋不定詞〉の形になっても必要である。

live *in a house* → a house to live **in**
V 前置詞 名詞

同様に 148 も，play *with a toy* → a toy to play **with** となる。

! 注意 前置詞が変わると意味も変わることがあるので注意しよう。

Do you have something **to write on**? 〔write **on** paper〕
(何か書くもの〔紙やノート〕をお持ちですか)

Do you have something **to write with**? 〔write **with** a pen〕
(何か書くもの〔筆記用具〕をお持ちですか)

参考 次のように，慣用的に前置詞をつけない場合がある。

I have no money **to buy** a new computer.
(私は新しいコンピューターを買うお金がない)
buy a new computer *with* money なので本来は前置詞 with が必要。

d. 同格の関係

不定詞が前に来る(代)名詞の内容を説明する場合もある。149 の場合は，promise の具体的内容が to call me であり，promise と to call me は同格の関係にあると言う。不定詞と修飾される(代)名詞が同格の関係にある場合，「～する[である]という(代)名詞」と訳すとよい。

149→ He forgot his promise that he would call me.
(=)

My son had a strong desire **to study** abroad.
(=)
(息子は海外留学をしたいという強い願望を持っていた)

She had the kindness **to show** me the way.
(=)
(彼女は親切にも私に道を教えてくれた)
= She was kind *enough to* [*so* kind *as to*] show me the way. p. 176 参照

形容詞 kind(親切な)の名詞形は kindness。-ness をつけて名詞になるのは他に，cold(冷たい)→ coldness(冷たさ)などがある。

CHECK AND EXPRESS 67

( )内の語(句)を並べかえて，英文を完成しなさい。

1. I want to visit the city. There are (places / to / many / see) in the city.
2. He's very busy. He has (answer / e-mails / to / a lot of).
3. She was lonely in her class. She had (talk / friends / to / with / no).

§68 必修 副詞的用法(1)

150 I went to a bookstore **to buy** the magazine. 私はその雑誌を買うために書店へ行った。
151 He was glad **to see** you. 彼はあなたに会えてうれしかった。
152 The boy grew up **to be** a great artist. その少年は成長して偉大な画家になった。

不定詞には前の動詞・形容詞などを修飾する用法がある。これを不定詞の副詞的用法と言う。副詞的用法の不定詞は，次のような意味を表す。

Point 1 不定詞で目的を表す「～するために」

150 の to buy は「買うために」の意味で，書店へ行く目的を表している。

We started early **to avoid** the rush hour.
(私たちは混雑する時間帯を避けるために早く出発した)

!注意 「目的」の意味であることをはっきりさせるために，**in order to** ～や **so as to** ～の形を用いることもある。

Study hard **in order to pass** the test.
(試験に通るように一生懸命勉強しなさい)

George hurried **so as to catch** the first train.
(ジョージは始発電車に乗るために急いだ)

「～しないように」という否定形は，to の前に not を入れて，**in order not to** ～，**so as not to** ～とする。

George hurried **so as not to miss** the first train.
(ジョージは始発電車に乗り遅れないように急いだ)

Point 2 不定詞で感情の原因を表す「～して」

pleased(満足した)，happy(幸せな)，sorry(残念な)など，感情を表す語の後に来て，「～して…」とその原因・理由を表す。151 では glad(うれしい)の後に to see you(あなたに会えて)が来て，うれしい理由を示している。

He was happy **to have** so many good friends.
(彼はそんなに多くのよい友人を持って幸せだった)

She was surprised **to learn** the facts.
(彼女は事実を知って驚いた)

oo はたいてい [u:] と読むが，good，cook(料理する)，hook(フック)，took(take の過去形)などは [u] と読む。

Point 3 不定詞で結果を表す「…して～」

「…して(その結果)～する」の意味で，結果を表す。152 では The boy grew up(少年は成長した)の後に to be ～が来て，「成長してその結果～になった」の意味を表している。

I awoke one morning **to find** myself famous.
= and found
(ある朝目が覚めたら私は有名になっていた)

awake(目覚める)は awake — awoke — awaken と活用する。

結果を表す不定詞の前に来る動詞の代表的なものとして，live(～まで生きる)，awake(目が覚めてみると～である)，grow up(成長して～になる)などがある。

My grandmother lived **to be** ninety-seven.
(祖母は97歳まで生きた)

!注意 **only to** ～，**never to** ～
結果を表す不定詞の前には **only**，**never** がつくことがある。only は予期に反した結果や失望を表す。

She called on her sister, **only to find** her out.
(彼女は姉[妹]を訪ねたが，留守だった)

The old man left the village, **never to return**.
(その老人は村を去って，二度と帰らなかった)

CHECK AND EXPRESS 68

2 文がほぼ同じ意味を表すように，( )内に適当な 1 語を入れなさい。

1. As she had to support her family, she worked hard.
   She worked hard in ( ) ( ) support her family.
2. He was eighty-nine years old when he died.
   He ( ) ( ) ( ) eighty-nine years old.

表現BOX 11 「～したい」の表現

「私は～したい」と自分の希望を伝えるには，I want to ～の他にもいろいろな表現ができる。ニュアンスの違いに注意しよう。

① **want to** ～を用いて：「～したい」とはっきり言う。直接的な言い方になるので，目上の人に対しては hope to ～を用いるのがふつう。

I **want to** have a talk with him.
(私は彼と話がしたい)

We **hope to** see you again soon.
(また近いうちにお会いしたいです)

② **would like to** ～を用いて：「～したいのだが」と控えめに言う。

I **would like to** ask you to introduce me to Dr. Hanes.
(ヘインズ博士に紹介していただきたいのですが)

③ **wish** を用いて：「～を望む」と希望を述べる。
want to ～，would like to ～よりも形式ばったていねいな表現。

I **wish to** see Dr. Hanes tomorrow.
(ヘインズ博士に明日お目にかかりたいのですが)

§69 必修 副詞的用法(2)

153 He must be crazy **to do** such a thing.
そんなことをするとは，彼は気が狂っているにちがいない。

154 The sign is easy **to notice**. その標識はよく目立つ(目につきやすい)。

Point 1 不定詞で判断の根拠を表す「～するとは」

不定詞にはまた，crazy，kind，careless，brave など，人の性質などを表す語の後に来て，「～するとは…だ」と判断の根拠を表す働きもある(→153)。

You were careless **to lose** the key.
(カギを失うとは，あなたは不注意だった)

Point 2 不定詞が形容詞の意味を限定する「～するのに」

不定詞には，前の形容詞の意味を限定する働きもある。〈be 動詞＋形容詞＋不定詞〉の形で，「～するのに…である」という意味になる(→154)。

He is pleasant **to talk to**.
(彼は楽しい話し相手だ)

この用法の不定詞の前に来るのは，easy(容易な)，difficult [hard](難しい)などの難易や，comfortable [uncomfortable](快適[不快]な)，pleasant(楽しい)などの快・不快を表す形容詞が多い。

difficult は「難しい」，different は「異なる」。

! 注意 It を用いた文への書きかえ

形容詞の意味を限定する用法の文は，形式主語の It を用いて書きかえられる。

The sign is easy to notice. → **It** is easy **to notice** the sign.
He is pleasant to talk to. → **It** is pleasant **to talk** to him.

しかし，同じ〈be 動詞＋形容詞＋ to 不定詞〉の形でも，例えば

We are glad to help you.(あなたのお手伝いができてうれしい)

のような文は，It を用いて書きかえることができない。書きかえられるのは，文の主語が不定詞の意味上の目的語になっている場合に限られる。

The sign is easy to notice. (→○ to notice the sign)
S

We are glad to help you. (→× to help us)
S

参考 〈be 動詞＋形容詞＋ to 不定詞〉の慣用句

be apt to ～(～しがちである)，**be sure to** ～(きっと～する)，**be likely to** ～(～しそうである)，**be ready to** ～(～する用意ができている，喜んで～する)，**be willing to** ～(すすんで～する，～するのをいとわない)，**be bound to** ～(きっと～する)，**be anxious to** ～(～したがる)など

ready の ea は [e] と読む。pleasant(楽しい)も同じ。

George **is sure to come** in time. (ジョージはきっと間に合うように来る)

It **is likely to rain** in the evening.
(夜には雨が降りそうだ)

She **was anxious to know** his telephone number.
(彼女は彼の電話番号を知りたがっていた)

参考 仮定を表す用法 →p.320 参照

仮定法で不定詞が「もし～すれば」の意味を表す場合がある。

To hear him, you would take him for a real artist.
(彼の話を聞くと，彼を本当の画家と思うだろう)
= If you heard him, you would take him for a real artist.

CHECK AND EXPRESS 69

2 文がほぼ同じ意味を表すように，( )内に適当な 1 語を入れなさい。

1. It is comfortable to sit on this sofa.
   This sofa is (　) (　) (　) (　).
2. It is not easy to solve the problem.
   The problem is not (　) (　) (　).

§70 必修 不定詞の否定形

155 John tried **not to wake** the baby. ジョンは赤ん坊を起こさないようにした。

Point 不定詞の否定形は〈not to ＋動詞の原形〉

不定詞の否定形は，**不定詞の前に not または never をつける**。

They decided **not to discuss** the matter any further.
(彼らはその問題をそれ以上議論しないことに決めた)

We parted there, **never to see** each other again.
(私たちはそこで別れて，それっきり再会することはなかった)

discuss ～で「～を議論する」。discuss の後に about などの前置詞は不要。

! 注意 不定詞の否定と文の否定

文全体を否定する場合と比較しよう。

John **tried not to wake** the baby. 〔不定詞の否定〕
(ジョンは赤ん坊を起こさないようにした)

John **didn't try to wake** the baby. 〔文全体の否定〕
(ジョンは赤ん坊を起こそうとしなかった)

CHECK AND EXPRESS 70

日本文の意味を表すように，下線部に適当な語句を入れなさい。

1. 彼は 2 度とここへ来ないと約束した。 He _____ come here again.
2. 彼は再びここへ来るという約束はしなかった。 He _____ come here again.

§71 必修 S＋V＋O＋to 不定詞

156 I **asked** him **to call** back later. 私は彼に後で電話してくれるように頼んだ。

157 We **believe** her **to be** honest. 私たちは彼女が正直だと信じている。

Point 1 「Oが～することをV」を不定詞で表す

「Oが～することをV」のように言うときは，〈S＋V＋O＋to 不定詞〉の形にする。O と to 不定詞は意味上〈S＋V〉の関係にある。156 は〈ask＋O＋to～〉で「Oに～するように頼む」，157 は〈believe＋O＋to～〉で「Oが～すると信じる」の意味になる。

to 不定詞とは〈to＋動詞の原形〉のこと。ふつう「不定詞」と言えば to 不定詞を指す。

156→ He'll call back later.

157→ She is honest.

注意 V が **promise**（…すると約束する）の場合だけは例外で，〈to＋不定詞〉で表される動作をするのは O ではなく，S である。 →p. 169 参照

She **promised** me **to be** back in one hour.

→ *She* promised me that *she* would be back in one hour.

（彼女は1時間後に戻って来ると私に約束した）〔→戻って来るのは彼女〕

Point 2 〈S＋V＋O＋to 不定詞〉で用いられる動詞

1 命令・依頼・忠告を表す動詞

want，**like**，**ask**，**tell**，**teach**，**advise**，**beg**（～に…するよう頼む），**cause**，**allow**（～に…することを許す），**expect**，**order**（～に…するよう命じる），**promise**，**request**（～に…することを要求する）など

expect は「期待する」，expert は「エキスパート，専門家」，experiment は「実験」。

We **want** them **to be** quiet.

（私たちは彼らに静かにしてもらいたい）

I **expected** him **to come** on time.

（私は彼が時間通りに来るだろうと思っていた）

参考 〈S＋V＋O＋to 不定詞〉の構文を that 節を用いて表現できる場合がある。

① V が **tell**，**teach**，**advise** などの場合

→〈S＋V＋O＋that 節〉〔O が残る〕

My parents told me to tell the truth.

→ My parents **told** me **that** I should tell the truth.

（両親は私に本当のことを言うようにと言った）

The doctor advised him to take a good rest.

→ The doctor **advised** (him) **that** he should take a good rest.

（医者は彼に十分な休養をとるようにと忠告した）

② V が **expect**，**order**，**request** などの場合

→〈S＋V＋that 節〉〔O がなくなる〕

We expected them to do their best.

→ We **expected that** they would do their best.

（私たちは彼らが全力をつくすことを期待した）

Father ordered me to stay indoors.

→ Father **ordered that** I should stay indoors.

（父は私に屋内にいるように命じた）

indoors は「屋内に」，outdoors は「屋外に」。

③ ただし，**allow**，**like**，**want** などを用いた〈S＋V＋O＋to 不定詞〉の構文は，that 節を用いて表現することはできない。

○ She allowed me to go out at night.

× She allowed *that I would go out at night*.

（彼女は私に夜間の外出を許可してくれた）

○ He wanted his son to take over his business.

× He wanted *that his son would take over his business*.

（彼は息子に家業を継いでもらいたかった）

2 判断を表す動詞

believe（～が…であると信じる），**consider**（～を…と見なす），**find**（～が…であるとわかる［気づく］），**think**（～を…であると思う），**understand**（～を…であると理解する）など

この場合，不定詞が省略されることがある。

We **consider** him (**to be**) a good cook.

（私たちは彼は料理が上手だと思う）

They **thought** him (**to be**) a murderer.

（彼らは彼を殺人者だと考えた）

参考 判断を表す動詞は原則的に that 節を用いて表現することが可能。むしろ〈S＋V＋that 節〉の構文のほうがふつうに用いられる。

157→ We **believe** that she is honest.

I **considered** the risk **to be** too great.

→ I **considered that** the risk was too great.

（私は危険が大きすぎると思った）

CHECK AND EXPRESS 71

（　）内の語を並べかえて，英文を完成しなさい。

1. Today I had a call from her. She (come / me / to / asked / to) her office tomorrow.
2. He looks very tired. Will you (to / him / take / advise) a few days' off?

§72 必修 S＋V＋O＋原形不定詞

158 I **saw** her **laugh**. 私は彼女が笑うのを見た。

159 My joke **made** her **laugh**. 私の冗談は彼女を笑わせた。

〈S＋V＋O＋原形不定詞〉で用いられる動詞には，次のようなものがある。

原形不定詞は，〈動詞の原形〉だけで to のない形を言う。

Point 1 知覚動詞「～が…するのを見る[聞く]」など（→ 158）

see，**hear**，**feel**，**notice**，**observe**（～が…するのを観察する），**watch**，**perceive**（～が…するのに気づく），**listen to**，**look at** など

I often **heard** her **say** so.
（私は彼女がよくそう言うのを聞いた）

We **didn't notice** him **leave** this room.
（私たちは彼がこの部屋を出て行くのに気づかなかった）

Listen to the boys **sing**. （少年たちが歌うのを聞いてごらん）

Point 2 使役動詞「～に…させる」（→ 159）

make（〔相手に強制的に〕～させる），**let**（〔相手の希望により〕～させる，～するにまかせる），**have**（～させる，～してもらう）

She **made** her son **play** outdoors. （彼女は息子を屋外で遊ばせた）

Let me **give** you a clue. （あなたにヒントを与えよう）

He **had** his sister **go** shopping for him.
（彼は自分の代わりに姉[妹]を買い物に行かせた
→〔姉[妹]に買い物に行ってもらった〕）

！注意 get＋O＋to～

get は to 不定詞を用いて使役「～させる」を表す。

I **got** my son **to paint** the walls.
（私は息子に壁のペンキ塗りをさせた）

paint [péint] のように，ai は [ei] と読むことが多い。rain（雨），wait（待つ），nail（つめ）も同じ。

！注意 help＋O＋(to)～

help は〈help＋O＋to 不定詞または原形不定詞〉のどちらの形でも用いられる。

She **helped** her mother **(to) cook**.
（彼女は母が料理するのを手伝った）

参考 受動態への書きかえ

知覚動詞や，使役動詞の make を用いた文は，受動態にすると原形不定詞が **to 不定詞**に変わる。

They *saw* him **enter** the room.
→ He *was seen* **to enter** the room. 〔受動態〕
（彼はその部屋に入るのを見られた）

They *made* the boys **work** at night.
→ The boys *were made* **to work** at night. 〔受動態〕
（少年たちは夜働かされた）

let，have を用いた〈S＋V＋O＋原形不定詞〉の文は受動態にはしない。

ギモンのタネ 21 使役の make，have，let はどう使い分ける？

make は相手の意志に関係なく無理やり「～させる」。

My boss **made** me **work** last Saturday.
（上司は私を先週の土曜日に働かせた）

let は相手が望むことを許可して「～させてやる」。

My father **let** me **go** to the party.
（父は私をパーティーに行かせてくれた）

have は目上の人が目下の人に，あるいは職務として「～させる，してもらう」。

I'll **have** him **call** you back later.
（彼に後で電話させます）

get は相手を説得などして「～させる」。

I **got** my husband **to give** up smoking.
（私は夫にタバコをやめさせた）

make は強制，let は許可

What Do You Say? ―こんなときなんて言う？

外出 OK だって！

私のお父さんは，厳しい。高校生にもなって，門限は8時！　ほんとに頭堅いんだから…。それで，この間私，どうしても行きたいコンサートがあったの。それが夕方6時に始まって，終わるのが8時！　それから家に帰ると，どうしても9時過ぎになるのよね…。無理だとは思ったけど，でも，がんばって交渉してみたの…今度のテストで絶対いい点取るとか，家でちゃんとお手伝いするとか，いろんな条件つけて…そしたらなんと，OKが出た！　言ってみるもんよね。こんな状況を英語ではどう言うでしょうか。

1 My father **made** me go out.
2 My father **let** me go out.
（父は私を外出させた）

この場合は，あなたの希望を叶えて許可する，「～させてあげる」の意味だから，let を使った 2 が正解。許可が出てよかったね。

CHECK AND EXPRESS 72

（　）内の語のうち，適切なほうを選びなさい。

1. The boy didn't like milk, but his mother always (made / let) him drink it.
2. She wants to go to the movie, but her parents will not (make / let) her go alone.
3. Yesterday I asked them to clean the room. Did you see them (clean / to clean) it?

§73 必修 不定詞の意味上の主語

160 I want *to carry* out the plan.

私はその計画を実行したい〔→実行するのは私〕。

161 I want **you** *to carry* out the plan.

私はあなたにその計画を実行してほしい〔→実行するのはあなた〕。

162 This is a good book **for students** *to read*.

これは学生が読むのによい本です。

Point 1 不定詞の意味上の主語

不定詞が表す動作をする人[物]を，不定詞の**意味上の主語**と呼ぶ。意味上の主語を特に明示しない場合と，明示する場合とがある。

Point 2 意味上の主語を明示しない場合

1 意味上の主語が一般の人のとき

To learn a foreign language is not easy.
(外国語を習得するのは容易ではない)

To get up early is good for the health.
(早起きは健康によい)

これらの文は不定詞が表す動作をするのが特定の人ではなく，**一般の人**であることを示している。

2 文の主語と一致するとき

160 のように，不定詞の意味上の主語が文の主語である場合は特に明示しない。

She decided *to go* abroad.
(彼女は外国へ行く決心をした)

この場合，decided という動作をした人も，go abroad という動作をする人も，ともに文の主語である she である。

参考 **160** は不定詞が名詞的用法の場合であるが，他の用法の場合でも同様である。

I have a plan *to travel* to France during the holiday. 〔形容詞的用法〕
(私は休暇中にフランス旅行をする計画がある) 〔→旅行するのは私〕

We have no time *to quarrel* with you. 〔形容詞的方法〕
(私たちには君と口論している時間がない) 〔→口論するのは私たち〕

He went out *to have* lunch with his friend. 〔副詞的用法[目的]〕
(彼は友人と昼食をとるために外出した) 〔→昼食をとるのは彼〕

quarrel は主に「口げんかをする」ことを言う。格闘や取っ組み合いの「けんかをする」は fight。

Point 3 意味上の主語を明示する場合

不定詞が表す動作をする人[物]が，主語と異なる特定の人[物]の場合は，意味上の主語を明示する必要がある。

1 S + V + O + to 不定詞[原形不定詞]〉

161 では，O が不定詞の意味上の主語である。

I asked **her** *to close* the window. (私は彼女に窓を閉めるように頼んだ)
S V O 〔→窓を閉めるのは彼女〕

John let **his son** *travel* abroad. (ジョンは息子に海外旅行をさせてやった)
S V O 〔→海外旅行をするのは息子〕

注意 動詞が **promise** の場合は，〈S + V + O + to 不定詞〉の文型でも，文の主語が不定詞の意味上の主語である。 ➡ p.164 参照

He promised **me** *to come* back by four.
→ He promised me that **he** would come back by four.
(彼は 4 時までに戻ると私に約束した)〔→戻るのは私ではなく彼〕

2 不定詞の前に〈for ＋意味上の主語〉を置く

162 のように，**不定詞の前に〈for ＋意味上の主語〉を置くこともある。**
意味上の主語が**代名詞の場合は目的格**にする。

This car is difficult **for me** *to drive*.
(私がこの車を運転するのは難しい)

I've made a copy **for you** *to read* later.
(後であなたが読むようにコピーをとっておいた)

There is no reason **for John** *to apologize* to her.
(ジョンが彼女に謝る理由はない)

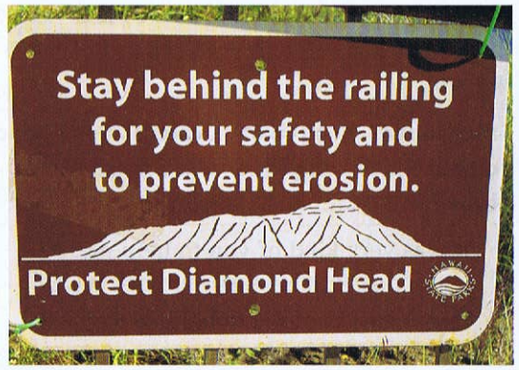
apologize「謝る」[əpɑ́lədʒàiz]

参考 for の代わりに of を用いる場合もある。 ➡ p.170 参照

CHECK AND EXPRESS 73

( )内の語を不定詞の意味上の主語にして，文を書きかえなさい。必要があれば( )内の語の形を変えること。

1. She likes to sing that song. (Jim)
2. It is not easy to get full marks in the exam. (she)



安全のため，土地の浸食を防ぐために手すりの外に出ないでください。ダイヤモンドヘッドを守ろう。(アメリカ・ハワイ州)▶

§74 必修 It ～ (for _) to ... など

163 It is not easy **to get** there on foot.

徒歩でそこへ行くのは簡単ではない。

164 It is natural **for him to get** angry at you.

彼があなたに腹を立てるのは当然だ。

165 She thought **it** useless **to talk** about the problem.

彼女はその問題について話し合うのは無駄だと思った。

Point 1 It ～ (for _) to ... など

不定詞が主語の文では，形式主語の **It** を文頭に置き，真の主語である to 不定詞を後に置くことが多い。 ➡ p.156 参照

1 It ～ to ... 「…するのは～」

163 では to get there on foot（徒歩でそこへ行くこと）が文の主語だが，形式主語の It を文頭に置き，to 不定詞を後にまわしている。

It is a good idea **to advertise** on the Internet.

形式主語 (=) 真の主語

（ネットで広告をするのはいい考えだ）

Is **it** interesting **to watch** the stars?

（星を観察するのはおもしろいですか）

2 It ～ for _ to ... 「—が…するのは～だ」「…するのは—にとって～だ」

これは It ～ to ... の文で，特に不定詞の意味上の主語を示した形である。164 では，to get angry at you（あなたに腹を立てる）のは彼なので，for him をその前に置いている。

It will be easy **for you to answer** the question.

（あなたにとってその質問に答えるのは簡単だろう）

It is の次に来る形容詞が次のように**人の性質・態度**を表す場合は，for の代わりに of を用いる。〈**It ～ of _ to ...**〉で「…するとは—は～だ」の意味を表す。

nice，**kind**，**good**（親切な），**careful**（注意深い），**careless**（不注意な），**clever**（利口な），**stupid**（愚かな），**foolish**（ばかな），**cruel**（残酷な），**brave**（勇敢な）など

careless は care（注意）＋less（～のない）で「不注意な」。careful は care＋ful（～に満ちた）で「注意深い」。

It was very kind **of you to help** me.

（手伝ってくださってどうもありがとうございました）

It was stupid **of me to believe** that.

（それを信じるとは私も愚かだった）

!注意 It ～ of _ to ... の構文は，of の後に来る「人」に対して話し手がどう思っているかを表すので，その「人」を主語にして言いかえることができる。

It was very kind of *you* to help me.

→ **You** were very kind to help me.

It was stupid of *me* to believe that.

→ **I** was stupid to believe that.

参考 for _ と of _ の読み方

It ～ for [of] _ to ... の文を区切って読む場合の区切り方に注意しよう。

① It is natural / **for her** to complain about it.

（彼女がそれに対して不平を言うのは当然だ）

② It is careless **of her** / to make such a mistake.

（そんな間違いをするなんて彼女は不注意だ）

① では「彼女が不平を言うことは／当然だ」だから意味の切れ目は **for** の前に，一方②では，「そんな間違いをするとは／彼女は不注意だ」となるから **to** の前に意味の切れ目，すなわち息の切れ目がある。

Point 2 S ＋ V ＋ it ～ to ...

〈S ＋ V ＋ O ＋ C〉の文で O が to 不定詞の場合は，**形式目的語の it** を用いて，**真の目的語**である to 不定詞は後へまわす。〈**S ＋ V ＋ it ＋ C ＋ to 不定詞**〉の形になる。165 では to talk about the problem（問題について話し合うこと）が真の目的語で，C である useless の後に置かれている。

I found **it** impossible **to finish** the work by noon.

S V O C 真の目的語

形式目的語

（正午までにその仕事を終えるのは不可能だとわかった）

He made **it** a habit **to take** a walk after lunch.

（彼は昼食後散歩するのを習慣にしていた）

不定詞の意味上の主語を示す場合には，to 不定詞の直前に置く。

I think **it** a pity *for you* **to miss** such an opportunity.

（私は君がそんな機会を逃すのを残念に思う）

opportunity は「よい機会」。chance も「よい機会」だが「思いがけなく起こる」意味合いが強い。

CHECK AND EXPRESS 74

日本文の意味を表すように，（　）内の語を並べかえなさい。

1. 私のかばんを運んでくれるなんて彼は親切だった。
   It (him / to / was / of / carry / kind) my bag.
2. 彼女はその仕事をするのは簡単だと思っていた。
   She (easy / thought / do / it / to) the job.

§75 必修 疑問詞＋to 不定詞

166 **When to start** is the main problem. いつ出発するかが重要な問題だ。

167 The problem is **where to get** food. 問題はどこで食料を手に入れるかだ。

168 I don't know **how to contact** him.
どのようにして彼と連絡を取ればよいのかわからない。

Point 1 〈疑問詞＋ to 不定詞〉の意味

〈疑問詞＋ to 不定詞〉の形で「どのように～すべきか」,「いつ～すべきか」,「どこで[へ]～すべきか」などの意味を表し，名詞的用法と同じように文の主語・補語・目的語になる。

how to ～	どのように～すべきか，～の仕方
what to ～	何を～すべきか
who(m) to ～	誰を～すべきか
which to ～	どちらを～すべきか
when to ～	いつ～すべきか
where to ～	どこへ[で]～すべきか

why to ～の形はまれである。

!注意 what と which の場合はその後に名詞が来て，〈**what [which]＋名詞＋to 不定詞**〉の形になる場合がある。

I wondered **what** *book* **to read**.
(私はどんな本を読むべきか考えた)

The girl didn't know **which** *way* **to go**.
(少女はどちらの道を行けばよいのかわからなかった)

Point 2 〈疑問詞＋ to 不定詞〉が主語になる

〈疑問詞＋ to 不定詞〉は文の主語として用いられる。166 の主語 When to start は「いつ出発すべきか」の意味を表している。

Which to choose is not so important to you.
S
(どちらを選ぶかはあなたにとってそんなに重要なことではない)

important は「重要な」，import は「輸入する」，impossible は「不可能な」。

Point 3 〈疑問詞＋ to 不定詞〉が補語になる

〈疑問詞＋ to 不定詞〉は文の補語にも用いられる。167 の補語 where to get food は「どこで食料を得るべきか」の意味を表している。

The question is **how to persuade** her.
S V C
(問題はどのようにして彼女を説得するかだ)

Point 4 〈疑問詞＋ to 不定詞〉が目的語になる

〈疑問詞＋ to 不定詞〉は study，learn，know，tell，show などの動詞の後で，その目的語として用いられる。168 の how to contact him は「どのようにして彼と連絡を取ればよいか，連絡の取り方」の意味を表す。

He couldn't decide **who(m) to ask**.
S V O
(彼は誰に頼んだらよいのか決められなかった)

I'll tell you **what to do** next.
S V IO DO
(次に何をしたらよいか教えてあげよう)

!注意 前置詞の目的語になる〈疑問詞＋to 不定詞〉
〈疑問詞＋ to 不定詞〉は前置詞の後に来ることがある。

Let's talk *about* **what to do** with the money.
(そのお金をどう扱うべきか話し合おう)

She advised me *on* **where to stay**.
(彼女はどこに滞在すべきかについて私に助言してくれた)

advise は動詞で「忠告する」，advice は名詞で「忠告」。

!注意 名詞節への書きかえ
〈疑問詞＋ to 不定詞〉は should を用いて書きかえられる。

166→ *When we should start* is the main problem.
167→ The problem is *where we should get food*.
168→ I don't know *how I should contact* him.

参考 疑問詞の代わりに whether を用いて，〈**whether＋to 不定詞 ...(or not)**〉で「～すべきかどうか」の意味を表すことがある。

She wondered **whether to take** his advice **or not**.
(彼女は彼の助言に従うべきかどうか迷った)

CHECK AND EXPRESS 75

次の状況に合うように，(　)内に適当な1語を入れなさい。下欄の動詞のいずれかを用いること。

1. パーティーの招待客を考えている。 I'm wondering (　)(　)(　).
2. 旅行の行き先を考えている。 I'm wondering (　)(　)(　).
3. 子どもへの誕生日の贈り物を考えている。 I'm wondering (　)(　)(　).

[go / invite / play / give]

＊ I'm wondering ～しようかしら

§76 必修 不定詞の完了形・受動態・進行形

169 She seems **to have left** Japan. 彼女はすでに日本を発ったようだ。
170 He wanted **to be invited** to the party. 彼はそのパーティーに招待してもらいたかった。
171 The boy seemed **to be studying** hard. その少年は一生懸命勉強しているようだった。

Point 1 不定詞の完了形は〈to have＋過去分詞〉

不定詞には，単純形〈to ＋動詞の原形〉と完了形〈**to have** ＋過去分詞〉の2種類がある。

1 単純形の不定詞

〈to ＋動詞の原形〉は述語動詞と同じ時，またはそれより未来を表す。

!注意 **hope**，**expect**，**intend**，**promise**，**want** など予定・願望の意味を持つ述語動詞とともに使われる単純形の不定詞は，その述語動詞の表す時よりも未来のことを表す。

I expect **to see** Dr. Jones next week.
→ I expect that I **will see** Dr. Jones next week.
（来週ジョーンズ博士に会う予定だ）

男性の敬称「～さん」にはふつう Mr. を使うが，博士，医者には Dr. が使える。

2 完了形の不定詞 （完了不定詞とも言う）

〈**to have** ＋過去分詞〉は述語動詞よりも前の時を表す。169 の to have left（～を発った）は seems（～のようだ）よりも前のことである。

I **am** sorry not **to have answered** your e-mail.
現在　現在より前＝過去
（あなたのＥメールに返事を出さないで，申し訳ありません）

e-mail は electronic mail の略。

「述語動詞よりも前の時」とは，次の通りである。

過去完了 ← 過去（現在完了） ← 現在

このことは，that 節を用いて書きかえるとはっきりする。

He seems **to be** abroad now.
現在　単純形＝同じ時
（彼は今海外にいるようだ）
→ It seems that he **is** abroad now.
現在　現在

He seems **to have been** abroad when the typhoon hit our city.
現在　完了形＝以前の時
（彼は町に台風が来たとき海外にいたようだ）
→ It seems that he **was** abroad when the typhoon hit our city.
現在　過去

typhoon [taifú:n] の ph は [f] と読む。他に，photo（写真），graph（グラフ）なども [f] と読む。

He seemed **to have been** abroad.
過去　完了形＝以前の時
（彼は海外にいたようだった）
→ It seemed that he **had been** abroad.
過去　過去完了

参考 〈**was [were]** ＋完了不定詞〉〈**would [should] like** ＋完了不定詞〉は実現しなかった予定や希望を表す。

I **was to have left** London on Monday.
（月曜日にロンドンを発つつもりだったのだが〔実際には出発できなかった〕）
= I was going to leave London on Monday, but I could not.
We **would like to have watched** the game.
（私たちはその試合を見たかったのだが〔実際には見ることができなかった〕）
= We wanted to watch the game, but we could not.

Point 2 不定詞の受動態は〈to be ＋過去分詞〉

不定詞の受動態は〈**to be** ＋過去分詞〉で表す（→ 170）。

I don't like **to be treated** like a child.
（私は子どものように扱われたくない）

Point 3 不定詞の進行形は〈to be + -ing〉

〈**to be + -ing**〉の形で，進行中の動作を表す（→ 171）。

He appears **to be recovering** well from the operation.
（彼は手術後順調に回復しているようだ）
He seems **to be living** alone now.
（彼は今１人暮らしのようだ）

recover の re- は「再び，反復して」の意味の接頭辞。repeat（繰り返す），remember（思い出す）など。

CHECK AND EXPRESS 76

2文がほぼ同じ意味を表すように，（　）内に適当な１語を入れなさい。

1. It seems that Bob is out now.
   Bob seems (　　) (　　) out now.
2. It seems that she bought the ticket.
   She seems (　　) (　　) (　　) the ticket.

（席へ）案内されるまでお待ちください。（レストラン内の表示）▶

§77 必修 too ～ to ...，～ enough to ... など

172 John is **too** young **to** go there alone.

ジョンは幼いので１人でそこへ行けない。

173 She was rich **enough to** buy the paintings.

彼女はそれらの絵を買うことができるほど金持ちだった。

Point 1 too ～ to ...「あまりに～で…できない」

too ～ to ... は「あまりに～で…できない」「…するには～すぎる」の意味を表す(→ 172)。

It's **too** cold **to** swim. （泳ぐには寒すぎる）

〈**so ～ that _ cannot ...**〉(とても～で…できない)で書きかえられることもある。

172→ John is *so* young *that* he *cannot* go there alone.

!注意 **too ～ for _ to ...**

意味上の主語を for _ で表すことがある。

My dog is now **too** big *for me* **to** hold in my arms.

(私の犬は今では私が腕に抱くには大きすぎる)

Point 2 ～ enough to ...「…するだけ十分に～」

～ enough to ... は「…するだけ十分に～」「十分～なので…できる」の意味を表す。173 は「それらの絵を買えるほど十分に金持ちだった」→「十分に金持ちだったのでそれらの絵が買えた」を表している。

so ～ that ...(とても～なので…)を用いて書きかえられることもある。

173→ She was **so** rich **that** she could buy the paintings.

(彼女は金持ちなので，それらの絵を買うことができた)

painting は通常，「着色された絵」を言う。picture は広く「絵画，写真」を意味する。

!注意 ～ enough to ... はいつも so ～ that ... に書きかえられるとは限らない。

She is old **enough to** go to school. （彼女は学校に行くことができる年齢だ）

→× She is *so* old *that* she can go to school.

(彼女はとても年を取っているので学校へ行くことができる)

old には①「年老いた」の意味と②「～できるだけの年齢に達した」の２つの意味がある。～ enough to ... の文では程度に重点が置かれるので②の意味になり，so ～ that ... の文では結果に重点が置かれるので①の意味になる場合が多い。

Point 3 so ～ as to ...「…するほど～な」

so ～ as to ... は「…するほど～な」「～にも…する」の意味を表す。

I was **so** foolish **as to** believe such a story.

(私は愚かにもそんな話を信じた)

Could you be **so** kind **as to** fetch my bag?

(私のかばんをとってきてくださいませんか)

!注意 **so ～ as to ... と so as to ...**

程度・結果を表す so ～ as to ... と，目的を表す so as to ... を区別しよう。 → p.160 参照

He ran fast **so as to** catch the bus. 〔目的〕

(彼はそのバスに間に合うように速く走った)

CHECK AND EXPRESS 77

(　)内の語(句)を並べかえて，英文を完成しなさい。

1. You're moving, but is the new house (enough / your family / live / for / to / big) in?
2. Could you help me? This box is (to / for / heavy / too / me) lift.

§78 発展 独立用法の不定詞

174 **To tell the truth**, I haven't reported it to my boss.

実を言うと，私はまだそれを上司に報告していない。

175 **To make matters worse**, it began to snow.

さらに悪いことには，雪が降り始めた。

Point to 不定詞を使った表現 to tell the truth など

to tell the truth(実を言うと)(→ 174)，to make matters worse(さらに悪いことには)(→ 175)のように，文中の他の語句から独立して用いられる不定詞がある。これらの不定詞は文全体を修飾している。

to tell the truth(実を言うと)，**to begin with**(まず第一に)，
strange to say(奇妙なことに)，**needless to say**(言うまでもなく)
to be brief(手短かに言えば)，**to be honest**(正直に言えば)，
to be frank with you(率直に言えば)，**so to speak**(言わば)，
to make matters worse(さらに悪いことには)，
to say nothing of [not to speak of] ～(～は言うまでもなく)

needless は need(必要)＋-less(～のない)で「不要の」の意味。

To be brief, the result was far below our expectations.

(手短かに言えば，結果は私たちの予想をはるかに下回った)

John is, **so to speak**, a grown-up child.

(ジョンは言わば，子どもがそのまま大人になったような人だ)

She can speak Chinese, **to say nothing of** English.

(彼女は英語は言うまでもなく，中国語も話せる)

CHECK AND EXPRESS 78

日本文の意味を表すように，(　)内に適当な１語を入れなさい。

1. 言うまでもなく，彼女は潔白だ。　(　)(　)(　), she is innocent.
2. 正直に言うと，私は仕事を辞めたい。　(　)(　)(　), I want to quit my job.

§79 必修 be to ～

176 He **is to** *leave* for London tomorrow. 彼は明日ロンドンに向けて発つことになっている。

177 You **are to** *obey* the rules. 規則には従わなくてはならない。

be to ～は次のようにいろいろな意味を表す。

Point 1 予定「～することになっている」(→ 176)

Dr. Martin **is to** *make* a speech at the conference.
(マーティン博士は会議で講演をすることになっている)

Point 2 義務「～しなければならない」(→ 177)

You **are to** *report* this to the police.
(あなたはこのことを警察に通報しなくてはならない)

Point 3 可能「～できる」

ふつう否定文の受動態で用いられる。

No one **was to** *be seen* on the street.
(通りには誰も見あたらなかった)

Point 4 意図「～するつもりだ」

主に if 節などの条件節で用いられる。

If you **are to** *win* the game, you must practice much harder.
(試合に勝とうと思うなら，もっと一生懸命練習しなくてはならない)

practice は動詞で「練習する」，名詞で「練習」。どちらもつづり・発音は同じ。

Point 5 運命「～の運命である」

ふつう過去時制で用いられる。

The artist **was never to** *return* home again.
(その画家は再び故郷には帰らぬ運命にあった)

CHECK AND EXPRESS 79

2 文がほぼ同じ意味を表すように，(　)内に適当な 1 語を入れなさい。

1. She will have a baby next month.
   She (　) (　) (　) a baby next month.
2. We could see no star that night.
   No star was (　) (　) (　) that night.

§80 発展 代不定詞

178 You don't have to do it, if you don't want **to**.
したくなければ，それをする必要はありません。

Point 不定詞の to だけを用いる

前に出た動詞の反復を避けるために，口語では動詞の原形を省略して to だけを用いることがある。これを**代不定詞**と言う。

178→ You don't have to do it if you don't want **to** ***do it***.

Will you visit Paris some day?
—— I'd like **to**.
= to visit Paris some day
(いつかパリに行きませんか。——行きたいですね)

You can take a rest if you want **to**. (休みたければ休んでもいいよ)
= to take a rest

I thought about buying a house, but then decided not **to**.
= to buy a house
(家を買うことも考えたが，やめることにした)

some day は「(未来の)いつか，ある日」。one day は「(過去の)ある日」。

参考 さらに次の例では，to を含む不定詞全体が省略されていると考えられる。

You can join the club whenever you want.
(希望すればいつでもクラブに入会できます)
→ want の後に to join the club が省略。

CHECK AND EXPRESS 80

下線部が日本文の意味を表すように，(　)内に適当な 1 語を入れなさい。

1. Would you come and see me next Saturday? —— Yes, I'd (　) (　).
   (ええ，そうしたいと思います)
2. I didn't call her because she told me (　) (　).
   (電話するなと言ったので)

Remember to wash your hands.
(忘れずに手を洗いましょう)
手洗いを呼びかけるポスター▶

§81 発展 happen to ～など

179 The man **happened to be** my father's friend.

その人は偶然父の友人だった。

180 She **appears to know** something important.

彼女は何か重要なことを知っているようだ。

Point 1 happen to ～「たまたま[偶然]～する」(→179)

chance to ～も同じ意味を表す。

I **chanced to see** Janet at the bus stop.

(私はたまたまバス停でジャネットに会った)

Point 2 appear to ～「～のようだ，～らしい」(→180)

They **appeared** not **to know** the facts.

(彼らはその事実を知らないようだった)

seem to ～も同じ意味を表す。 p.174 参照

注意 happen [appear] to ～などは It を用いて書きかえられる。

179→ It happened that the man was my father's friend.

180→ It appears that she knows something important.

I **happened to see** the accident on my way home.

→ **It happened that** I saw the accident on my way home.

(私は家へ帰る途中，たまたまその事故を目撃した)

Point 3 come [get, learn] to ～「～するようになる」

You will soon **come [get] to like** the people here.

(君はすぐにここの人々が好きになるだろう)

同じ「～するようになる」でも，努力の結果そうなる場合には，**learn to** ～を用いる。

Beth **learned to speak** Italian pretty well.

(ベスはイタリア語をかなり上手に話すようになった)

Point 4 manage to ～「なんとかして～する」

I **managed to finish** the report in time.

(私はなんとか間に合うように報告書を仕上げた)

Point 5 afford to ～「～する余裕がある」

ふつうは can や be able to とともに否定文・疑問文で使われる。

We can't **afford to travel** abroad so often.

(私たちはそんなにたびたび海外旅行をする余裕はない)

Point 6 prove [turn out] to ～「～であるとわかる」

He **proved [turned out] to be** a kind person.

(彼は親切な人であるとわかった)

参考 **have ～ to do with ...**「…と～な関係がある」

この慣用表現で使われる不定詞は to do のみであり，～の部分には much, something, nothing など，程度を表す語が来る。

He **had much to do with** the new laws on smoking.

(彼は喫煙に関する新しい法律に大いに関わっていた)

She **has nothing to do with** the affair.

(彼女はその事件とは何の関係もない)

law(法律)は [lɔ:], low(低い)は [lóu] と発音する。

CHECK AND EXPRESS 81

2 文がほぼ同じ意味を表すように，( )内に適当な 1 語を入れなさい。

1. I found an interesting book by chance.
   I ( ) ( ) find an interesting book.
2. Is he rich enough to buy such an expensive car?
   Can he ( ) ( ) buy such an expensive car?

ギモンのタネ 22 I want to completely erase the data. はOK？

to 不定詞の to と動詞の原形の間には何も入らないのがふつうだが，実際には間に副詞が入ることがある。例文では不定詞 to erase(消去すること)の間に副詞 completely が入って，「私はデータを完全に消去したい」の意味を表している。このような不定詞を**分離不定詞**と呼ぶ。

We need **to fully make** sure of the facts.

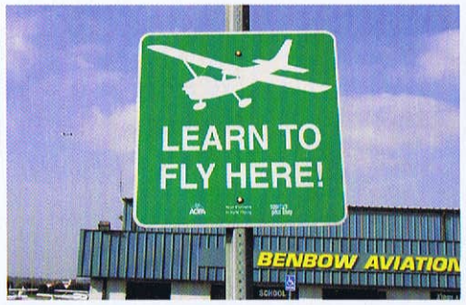
(十分にその事実を確認する必要がある)

They failed **to completely understand** my words.

(彼らは私の言うことを完全に理解することはできなかった)

分離不定詞は，文法的には正しくないという意見もあるが，意味を明確にしたり，他に副詞を入れる適当な場所がない場合に使われる。

➡ to と動詞の原形の間に副詞が入ることがある



「ここで飛べるようになろう！」
飛行訓練学校の看板▶

表現BOX⑫ 感情の表し方

「喜び」「悲しみ」などの感情を，〈be ＋形容詞＋ to 不定詞〉，〈be ＋形容詞＋ that ～〉，〈be ＋形容詞＋前置詞〉，〈be ＋過去分詞〉(受動態)などの形を用いて表現できる。特に〈感情を表す語＋ to 不定詞 ～〉は多くの場面で使うことが可能。これらの様々な例を見ていこう。

感　情	語　句	例　　文
喜　び	happy, glad, pleased, delighted など	I **was** very **happy** this morning **to find** an e-mail from her. (今朝彼女からＥメールが来ているのを知ってとてもうれしかった) She **is glad that** her son is coming back from America soon. (彼女は息子が間もなくアメリカから帰国するのを喜んでいる)
悲しみ 失　望	sad, sorry, disappointed など	We **are sorry to hear** the news of his death. (彼の死の知らせを聞いて，私たちは残念に思います) He **was disappointed at** the result of the selection. (彼は選考の結果にがっかりした)
驚　き ショック	frightened, surprised, shocked など	The boy **was frightened of** the barking dog. (少年はほえる犬におびえた) She **was surprised to see** a big rat run out of the closet. (彼女は押し入れから大きなネズミが飛び出して来るのを見て驚いた) I **was** so **shocked that** I could say nothing. (私は大きなショックを受けたので，何も言えなかった)
魅　了 興　奮 熱　狂	fascinated, excited, eager など	Visitors **are fascinated by** the clear, blue waters of the lake. (観光客は，その湖の青く澄んだ水に魅せられる) She **was eager to feed** the water birds. (彼女はしきりに水鳥にエサをやりたがった)
誇　り 恥	proud, ashamed など	I **am proud of** my aunt because she is a famous pianist. (私はおばを誇りに思う。彼女は有名なピアニストだからだ) She **is ashamed to tell** the story to others. (彼女はその話を他人にするのを恥ずかしいと思う)

第8章　動名詞

イメージをつかもう

-ing は何？

趣味やスポーツの名前の中には「～イング(-ing)」という形の言葉がありますね。クッキング(cooking)，ガーデニング(gardening)，ランニング(running)，ジョギング(jogging)，それに冬季オリンピックで脚光を浴びることになったカーリング(curling)など，これらは英語そのままの形で用いられています。
ところでこれらの語尾の「～イング(-ing)」というのは一体何でしょうか。これらの語の成り立ちを見てみましょう。

cook(料理をする)　→ **cooking**(料理をすること→料理)
garden(庭仕事をする) → **gardening**(庭仕事をすること→園芸，植物の栽培)
run(走る)　→ **running**(走ること→ランニング)
jog(早足で進む)　→ **jogging**(早足で進むこと→ジョギング)

これらの語はそれぞれ動詞の cook，garden，run，jog に -ing がついてできた語であることがわかります。動詞を〈**動詞の原形＋ -ing**〉の形にすると「～すること」の意味を表し，これを**動名詞**と言います。動名詞は文字通り「動詞の性質をかねそなえている名詞」という意味です。動名詞の中には完全に名詞化したものもあり，それらは辞書に見出し語として出ています。

進行形の -ing とは違う

running と言えば，I'm **running**.(私は走っているところです)のような文でも見かけますが，この章で扱う -ing 形(動名詞)は，進行形の文で使う -ing とは違います。進行形〈be ＋ -ing〉の -ing は現在分詞と言い，第３章 時制や第９章 分詞で扱います。